

視察（研修）報告書

令和 5 年 10 月 16 日

府中市議会議長 様

会派名又は 無所属
議 員 名 藤本秀範

日 時	令和 5 年 10 月 10 日(火) 令和 5 年 10 月 12 日(木)
研 修 先	全国市町村国際文化研修所(JIAM)
研 修 コ ー ス	令和5年度市町村議会議員研修(3 日間コース)
研 修 タ イ ト ル	人口減少社会における議会の役割
参 加 者	藤本秀範
研 修 内 容	●地方行政の現状と課題～2040 年を見据えて～ 講師：武庫川女子大学 経営学部 教授 金崎健太郎氏 ●子育て世代に「選ばれるまち」となるために 講師：大阪府寝屋川市 市長 広瀬慶輔氏 ●わがまちのありたい姿(ビジョン)を考える 講義・演習・発表・意見交換・講評 講師：千葉大学大学院社会科学研究院 教授 倉阪秀史氏 ●人口減少社会における議会の役割 講師：明治大学政治経済学部 教授 牛山久仁彦氏
所 感	今回の研修は、人口減少社会を見据えた 2040 年問題を軸に顕在化する諸課題と施策を主体とした研修であった。また、議会議員として人口減少社会をどう捉え、議会のあり方と役割について、あらためて理解を深める内容でもあった。各講義のポイントについて次のように要約した。 〔1〕地方行政の現状と課題～2040 年を見据えて～ ・年ごとの人口推移と年齢別人口ピラミッドおよび都道府県別人口増減率等の指標を用いた現状認識を図る。 ・平成期において、地方分権の推進および市町村合併など、行政改革を推し進める一方で、人口ピラミッドに対して制度改革は平行して

	追隨されていなかった状況であったように捉えている。(社会保障や社会保険制度の仕組み) ・平成の大合併による市町村数の変化は、地方分権改革が目指した社会の姿として捉えられ、中央政府と地方公共団体と対等な協力関係を広く構築していく議論が横行していた。 ・2040 年に向けた人口動向と個別課題の抽出(子育て/学校/高齢者/介護/老朽化したインフラ/公共交通/都市人口集中地区)から改めて方向を示す課題を緩和させることが問われている。 〔2〕子育て世代に「選ばれるまち」となるために～ 寝屋川市長広瀬氏より、執行した町づくりによって、市のイメージを変化させ、子育て家族を中心に人口流入が得られた。主に効果につながった取り組みを傾聴した。市の経緯として該当する市の人口は5万人であったが大阪万博以降 23 万人に増えたのと同時に公共施設も増えた。一方で当時の人たちは生産年齢から高齢化した年齢へと移行し、公共施設など継続維持に対する課題を人口の創出で緩和させた話がなされた。例えば、寝屋川市駅前に閉館していた市立図書館を斬新な設計で開館させ、駅前に活気を呼び起こした話は印象的であった。 〔3〕わがまちのありたい姿(ビジョン)を考える～講義と演習～ 社会増減人口の創出を目的とし、千葉大学が作成に携わった「未来カルテ」をもとに、グループ班で課題と提言について協議し政策立案につなぐ発表する実演習を行った。 〔4〕人口減少社会における議会の役割 人口減少社会を前提とした環境の認識から、今後の地方公共団体として総合的な議会のあり方について問われた講義を受講した。とくに交付金が配分される地方については、国の政策に則り推進する議案や事業に対して、政策評価をする最終決定機関が議会であることを注視しておく必要がある。地方自治法1条の2第1項である住民の福祉増進を図ることを基本として地域における行政を自主的かつ総合的に実施する役割を広く担うことが記されている。あらためて自治体の政治システムとなる二代表制(憲法第 93 条)が首長優位異論と
--	---

	位置づける議会として機能されたい旨の話がなされた。 全体として、人口減少社会から地域間での流入流出人口の移動から空洞化現象は生まれてくることが想像される。住民生活基盤をもとに、執行部側と向き合い議会の役割として機能する議員として活動に活かして参りたいと感じた。
--	--